

## 令和6年度 豊橋市健幸なまちづくり協議会歯科保健推進部会議事録

日時	令和6年11月28日(木) 午後2時30分から午後4時
場所	豊橋市保健所 1階 第1会議室
出席者	豊橋市健幸なまちづくり協議会歯科保健推進部会委員6名
欠席者	なし
事務局	豊橋市健康部保健所健康増進課

### 議題(1)豊橋市歯科口腔保健推進計画(第2次)に基づく今後の歯科保健の推進について 【資料1】

- 事務局 資料1(概要から基本方針3)説明。
- A委員 オンライン歯みがきについて、25園参加ということだが、設備面でオンラインでの実施が難しい場合は補助等でののか。
- 事務局 設備の問題で参加したいが断念するという声もあったが、今のところ補助等は考えていない。機材に関わらず、オンラインのやり方が分からないという声もあるので、その辺はフォローしていきたい。
- A委員 フッ素洗口事業については、学校歯科医から学校長や養護教諭に声をかけるようお願いはしている。保護者の意向でやらない場合を除いて実施に向けて声をあげている。
- B委員 歯周病検診受診に関する勧奨について、日常の診療の中で歯科受診を勧めるというのはなかなか難しい。十分に出来ているとは言えない。
- 事務局 高齢者の保健事業の一体化の担当としては、ポピュレーションアプローチで通いの場に関わらせていただく中では、お口に関する意識は低いように感じている。義歯を作っても使っていなかったり、管理も十分に出来ていないことがある。歯を喪失しても受診していない方もいる。受診を勧めてもなかなか難しい方も多い。しかし、受診できると、調子もよくなって食事量も増えてフレイルが改善されている。今後も、受診の必要性やオーラルフレイル予防について継続して周知していく必要性を感じている。
- A委員 訪問歯科診療に関しては、在宅高齢者についてグループLINEを立ち上げて50人近く登録がある。豊橋市歯科医師会事務局に依頼が入ると手上げ方式で対応している。依頼があった件についてはすべて対応している。障害者診療に関しては、こども発達センターで障害児診療を担っている先生を中心に対応している。医療的ケア児についても同様である。全体数が分からないので、どれだけ対応できているかは不明である。
- 部会長 豊橋市では全体数は把握できているのかどうか。
- 事務局 保健所に電話相談があり、訪問歯科診療の希望がある場合は豊橋市歯科医師会を紹介している。頻度としては年数回程度である。全体数の把握は出来ていないので分からない。

休日夜間歯科診療所において木曜日午後、障害者歯科診療も始まっており、受診できる方のフォローについては整ってきている。

C委員 昨年から豊橋市歯科医師会の主催で、デイサービスに無料で口腔ケアセミナーを開催する取り組みを行っている。その際、訪問歯科診療についても紹介している。

D委員 地域包括支援センターで要支援の方の担当をしている。  
要支援の方は通院が出来るので問題ないが、要介護の方だと居宅介護支援事務所が訪問歯科診療の紹介をしている。事業所ガイドブックにも掲載されている。

E委員 高齢期の方と関わることが多いので、肺炎の重症化リスクについて、肺炎球菌ワクチンの接種についての啓発をしている。薬局で薬を渡す時にお話したりしている。  
口腔ケアについても勧めている。歯科受診も勧めている。

## 議題(2)2歳児歯科健康診査について

【資料 2-1.2-2】

事務局 資料2説明。

部会長 2歳児歯科健康診査で一番受診率が高かった時はどれくらいだったのか。

事務局 直近では令和3年度が56.4%で一番高い。過去では平成30年度が58.3%であった。今は51%なのでだいぶ下がっている。

A委員 確かに自院でも以前と比べると2歳児歯科健康診査の受診は少ないように感じる。  
2歳児歯科はう蝕抑制とかかりつけ歯科医を持つ機会として必要なのかなとは思う。  
しっかり啓発していただきたい。

部会長 2歳児歯科健康診査の周知は1歳6か月児健康診査の時に周知しているのか。

事務局 1歳6か月児健康診査の時は口頭で周知している。  
2歳児歯科健康診査の受診券は個別通知している。

## 議題(3)25歳・35歳歯周病検診について

【資料3】

事務局 資料3、参考資料2、3について説明。

A委員 歯科医師会としては例会等で3回、会員には周知をしたが徹底できておらず申し訳ない。  
受診率について、同じような規模の自治体船橋市では25歳が3.3%、35歳が7%である。  
愛知県内では名古屋市、豊田市、一宮市、刈谷市、小牧市が実施している。  
他市を参考にしてもらえればよい。

部会長 豊橋市の場合、20歳と30歳の受診率はどの程度なのか。

事務局 今年度実績では、10月受診分までで20歳が235名、30歳が273名である。  
25歳・35歳と対象者数はほとんど変わらない。  
令和8年度にある歯周病検診の標準化の関係でシステム改修を予定しており、  
過渡期である令和6年度、令和7年度での改修は難しい状況があり、その辺の事情も  
お伝えをしていたが、どうしても早めに開始したいとの歯科医師会からの意向もあり、

今できる限りの方法で事業開始をしたところである。  
新規事業になるので現状報告をさせていただいた。

C委員 25歳・35歳だと子供さんの健診と一緒にかけられるようなものがあると違うのかなと思う。  
電話で歯科医院に予約をして、歯科医院から市に確認をするというのは流れが悪いように思う。

A委員 日本歯科医師会から最近提供があったのだが、歯や口の健康について10代・20代の理解度が低いという結果が出ている。  
知識の普及啓発が必要であると思う。

#### 議題(4)豊橋市口腔保健支援センター調査・研究事業について

【資料4】

事務局 資料4、参考資料4について説明。

A委員 口腔機能低下症という病名がついて、歯医者さんしっかり対応してくださいということでしっかり保険点数がつかまりましたので、そういう影響もあり判定率も上がってきたかと思う。  
高齢者は食べる楽しみは大切で、歯を失うことで笑顔がなくなったり、人と会うのが嫌になり社交的ではなくなる傾向がある。

事務局 フレイルという言葉が出てきたのがちょうど10年前ぐらい。  
その後、オーラルフレイルという言葉が出てきて、日本老年歯科学会から口腔機能低下症とはこういうものですよといった考え方がでた。  
歯科医師にとっては大学で学問的に学んでいない。何をやればいいのか分からない。  
そんな中で、後期高齢者歯科健診を始めるということになり、先進的にやっている所を探したがほぼ県レベルで行っており、市レベルでは3市しかなく中核市でやっているところはなかった。  
手上げではなく会員全員でやるとなると、検査項目、選択肢、判定結果をどうしていくか考えて作成をした。豊橋市のデータと国のデータを比較ができるようにすることも考えた。  
保険診療の中に、口腔機能低下症が算定されて、ちゃんと指導ができるようになって歯科医師の認識も上がってきたと思う。

部会長 全部の歯科医院で行う場合、何かの器具がないとできないでは難しいと思う。  
結果を見ても、口腔機能に関するデータが見られるようになったのは、該当する人数が増えたというよりは見方が変わってきたという事だと思う。  
う蝕があります、歯周病がありますというのはその場で治療が可能であるが、口腔機能低下が見られた時にどのように歯科医院で対応していくか。

事務局 口腔機能の低下がみられる方に関しては、受診後にお渡しするリーフレットを数点作成をして、口腔体操や唾液腺マッサージを紹介できる仕組みを作っている。  
誰が見ても分かるようなものを用意している。

C委員 対象者の年齢的に通院中の方も多いと思うので、通院中でも使えるといった情報も受診券に書いてあると受診に繋がると思う。

事務局 分かりやすい記載を心掛ける。